

壮春力歩

会長 鈴木 末一

心が通い合うメール通信

「ナラ枯れ」の被害が、奈良県にも発生し、ならやま里山林にも蔓延の兆しが見られ、その対策に取り組み始めたのが2011年の6月であった。

奈良県景観・自然景観課、奈良県森林整備課をはじめ、関係各機関の指導の下、里山林7haの全木調査を開始し、各種の対策に取り組んできた。その努力の甲斐があり、最小限の被害に食い止めることができたのであった。

当会がいち早く関係機関と協議し叡智を絞って対策を講じ、一定の成果を出したことを、是非とも社会的に啓発したいと、会員のYさんが取材依頼の手紙を報道機関に送られた。するとある社のうら若い女性記者が、関心を示されて取材に来られた。まだ経験年数も浅いと思われる新進の方であった。しかし、取材は謙虚で熱心、掲載された記事の内容構成も的を射たものであり、それが縁となって、何度か話題を追ってならやまへ足を運んでもらえたのであった。

2月の初め、その記者から一通のメールが届いた。当月末をもって退社するとの挨拶と、連絡先リストから自分のを削除してほしいとの要請であった。今時珍しい念入りなご挨拶である。それだけではなく、これまでの取材に答えてくれたお礼のことばとわが会員へ「がんばってください」とのエールが丁寧に綴られていた。Yさんは、「もしかして寿退社では？」と返信したという。記者から再びメールが届き、「ご推察のとおり。今後も何らかの形で文章を書いていければ・・・」とあった。

最初のメールは、私にも届き、もしかしてとは思ったのだが、事務的な返信しかなかったので、「より良きご家庭をお築きください」と、改めて「追伸」すると、やはり丁寧な返信があった。

ややもすれば、当節はよくも悪くも「一期一会」。孫の年代の記者から、お互いにほっともつとな気持ちで籠るような気配りの大切さを教えられた。

第28回コメリ緑資金助成金贈呈式

第28回コメリ緑資金助成金贈呈式が、2月8日にならやまのベースキャンプで行われた。株式会社コメリ関西地区本部ゾーンマネジャーの平原雅和氏と京都山城店店長杉田圭介氏にお越しいただき、会員70有余名の前で、平原氏から目録の贈呈を受けた。その後、ご両人を佐保自然の森などへご案内させていただいた。

コメリ緑資金助成制度は、今年で28回目を迎え、緑豊かなふるさとづくりを目的とした、里山里山などで行う自然環境の保護保全活動や整備、植樹活動などが、その対象となっている。昨年、この制度の存在をキャッチし、申請書を提出したところ、初めてであるにも関わらず、審議委員会で助成先団体に認定していただくことができた。

助成金は、単なる資金としてではなく、「志金」として受け止めたいと考えている。従って、その用途については、目的に沿ったものとし、有効活用に心掛けたいものである。

ならやまユートピア構想の中で、佐保自然の森については、生物多様性を大切に、従来生息していた生態系の復活を目指した整備に取り組む。

すなわち、花を楽しみ、蝶や昆虫を観察したり、木の実に集まる鳥など、生物が循環する里山の姿を蘇らせ守り育てていきたい。また、地域住民とのふれあいの場として、子供からシニア世代まで楽しめる憩いと癒しの空間、すなわち、「ならやまユートピア」構想の具現化を推進していきたい。

